

星のかけら 2022

～きらめくこの1冊～ Vol.32

川越市立図書館では、毎年夏に中高生におすすめの本のリスト「星のかけら」を作成しています。今年のおすすめ本10冊を紹介します。

★『10代と考える「スマホ」 スマホを三つ三つ手放せないキミへ。』

スマホでゲームしたり、友達と連絡を取り合ったりしていると、三つ三つ時間を忘れて夢中になって、時にはケンカやトラブルに発展することも…。この本では、ネット依存にならないように、みんなのネットの使い方やネット上のトラブル、使う時のルールの考え方についてデータを交えて紹介しています。

(竹内和雄／著 岩波書店 J00タ)

★『世界とキレル』 3週間、スマホなしで生きられる？』

夏休み、中学2年の舞は、いとこの鏡花とネットマガジンの企画である「林間学校」に参加することに。3週間のバカンスにウキウキしていたら、宿泊施設に着いたとたんスマホは没収。他にも規則が厳しくて…そんなこと、聞いてない！SNSの投稿に夢中になっている舞にとっては絶望的な環境。スマホの世界からキレルと、どんな世界が待っているのだろう。

(佐藤 まどか／著 あすなろ書房 J91.3サ)

★『飛べないハトを見つけた日から』 ケガをしたハトは生きている価値はないの？』

12才のダリルは、公園でつばさが折れて飛べないハトを見つけた。家につれて帰ると脚にはリングがついている。レースバトの印だ。探し当てた飼主には、「ケガをしたハトはいらない。飛べないハトは生きている価値はない。」と言われてしまう。納得できないダリルは、必死に両親を説得し、家の物置小屋で飼いだめたのだが…。最年少レースバト飼育者となるダリル少年の勇気の物語。

(クリス ダレーシー／作 相良 倫子／訳 東郷なりさ／絵 徳間書店 J93ダ)

★『法は君のためにある』 身近なトラブル、困ってませんか？』

もしも、SNSに自分の画像を勝手に載せられちゃったら君はどうする？部活の大会に誰が出るか、もめた時はどうする？この本ではそんな時、みんなが納得できる解決策を、法の考え方からアドバイスしています。いろんな価値観の人とともに生きていくために、この本を読んでみませんか。

(小貫篤／著 筑摩書房 J32オ)

★『チェスターとガス』 犬は最高のパートナー！』

僕はチェスター、見習いの補助犬だ。パートナーのガスは、言葉を話すのが苦手な男の子。人に体を触られたり、目を合わせたりするのも苦手。でも、僕にはガスの声が聞こえるし、ガスにも僕の声が聞こえてる。ガスが5年生になると、僕はサポートドッグとして学校と一緒に行くことになった。でも、それには反対している先生もいるみたい…。ガスと僕の学校生活、一体どうなっちゃうの？！

(ケイミー・マガヴァン／作 西本かおる／訳 小峰書店 93マ)

★『境界のポラリス』わたしは日本人？それとも中国人？

恵子は中国生まれ、日本育ち。今は言葉の壁を乗り越え高校生活を送っているけど、つらい過去の経験から友達には自分が中国人だと言えない。ある日、恵子は日本語教室「青葉夜間中学」で日本語を教えている幸太郎と出会い、外国人の生徒たちに日本語を教えることになり…。友達や生徒たちとギクシャクしながら友情をはぐくんでいく物語。
(中島空／著 講談社 J91.3ナ)

★『ハジメテヒラク』応援したい、でも怖い…。

過去のトラウマから脳内実況をするようになった、中学1年生のあみ。ひよんなことから入部した華道部で、お世話になっている花屋さんに恩返しをするために文化祭で生け花ショーをやることに。あみは初めて実況を担当。人前での実況は怖い。過去の失敗の記憶と戦う日々。それでも、それぞれ事情を抱えた仲間を実況で応援したい。はたしてショーは成功するのか…。
(こまつ あやこ／著 講談社 J91.3 /コ)

★『強制終了、いつか再起動』薬物なんて自分とは無関係一はずだった。

僕の名前は加地隆秋。編入した中学にはまだなじめていない。そんな僕の憧れは、大学生家庭教師の安岡さん。ある日、安岡さんの家に遊びに行くと大麻が。勧められるままに僕は手を伸ばし……。これは、薬物使用という名の人生強制終了ボタンを押してしまった中学生加地隆秋とそれに気づいた同じクラスの伊佐木周伍、麻矢夕都希の3人が薬物の怖さと向き合っていく物語。
(吉野 万理子／著 講談社 J91.3ヨ)

★『山をつくる』将来の進路選びのヒントに。

森を育て、木を届け、未来の森をつくるという「山をつくる」仕事をしている人たちの会社があります。それが「東京チェーンソーズ」。ここで働く人の中には学校を卒業後、他の仕事からこの仕事に転職してきた人がたくさんいます。林業って、キケンで、過酷で、しんどそうなのに、どうしてこの仕事を選んだのだろう？林業って、実は面白いのかも？
(菅 聖子／文 小峰書店 J65ス)

★『12歳のロボット』もしかしたら起こりえる未来。

ぼくはロボットだ。戦争で世界を壊しはじめた人間を、ぼくたちは脅威とみなして消去した。でもある時、絶滅したはずの人間と出会った。エマと名乗った人間は、地下で生き延びていて、病気がまん延したから、地下から出てきたということ話を話した。ぼくは、混乱したけれどぼくのロジックに従ってエマと旅に出ることにした。そこで知った真実とは…。
(リー・ベーコン／著 大谷真弓／訳 早川書房 93ペ)

～不安なとき・困ったとき、青少年悩みごと相談～

ひとりで悩まずご相談ください。秘密は守ります。

「少年指導センター」へ（市役所こども育成課内）



スマートフォンは
こちらから

049-224-5724（直通）

キミたちの年代に
キミたちの心を動かす本と出会ってほしい



川越市立中央図書館
西図書館
川越駅東口図書館
高階図書館

YA 担当一同
電話 222-0559
電話 237-5660
電話 228-7712
電話 238-7550